

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2026年 3月 1日				
べんぎんるーむ						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点
環境・整備・運営	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	△		静岡市のガイドラインに沿って、訪問時の抜き出しでの直接支援を行わず間接支援を行っているため、教具教材は使用しない。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	外部評価ができる第三者を探していきたい。	今後、外部評価ができる体制を整えていく。
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
適切な支援の提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	○		保護者から提出された検査結果やべんぎんのアセスメントシートなどによって課題を分析して支援計画を作成している。	VinelandやLDスカイブなども使いアセスメントを適切に行い支援計画を作るようにしていく。
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	○		学校で個別の支援計画を作成している児童については個別の支援計画を共有し、また、担任の先生と連携をとって意向を盛り込んでいる。	
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		保護者から提出された検査結果やべんぎんのアセスメントシートなどによって確認している。	VinelandやLDスカイブなども使い多角的にアセスメントを行えるようにしていく。
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	△		訪問支援当日は打ち合わせができないことが多いので、前日までに打ち合わせを行い連携して支援を行っている。	今後も前日までに打ち合わせを行い、支援内容などについて確認して連携して支援を行う。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	△		訪問支援当日に打ち合わせができないときには、後日、報告書とともに振り返りや気付いた点を共有して今後の支援に活かすようにしている。	時間がないときは支援当日は簡単な打ち合わせを行い、後日支援の振り返りの時間を十分にとるようにしていく。
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	○		訪問先の学校の理念や支援手法を熟知している元教員を配置し、学校のやり方を尊重して支援を行っている。	
18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	○				
19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		相談事業所、主治医、学校等の関係機関と連携して支援を行っている。	
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		小学校から中学校、中学校から高等学校への進学に際しては情報共有と層が理解を図っている。	今後、就学時の移行の児童が利用する場合は情報共有と相互理解を図っていく。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		公認心理師からの助言を受けたり、発達障害者支援センターなどの研修に参加したりしている。	
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		連絡協議会には参加している。	今後も積極的に参加できるように努めている。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		放課後等デイサービスと併用の子どもには送迎時や報告書を渡すタイミングで、こどもの状況を伝え合い共通理解を図っている。	対面や報告書・LINEなどいろいろな手段で伝え合い共通理解を持てるようにしていく。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		3・4か月に1回、保護者会を開催し、外部講師を迎えての研修会や情報提供等を行っている。	今後も保護者会を開催して、研修、情報提供の機会を設ける。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用契約時に丁寧に伝えている。	
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	○		新しく訪問を始める学校に対しては、管理職や特別支援コーディネーターなどの先生も交えて説明を行っている。	
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		モニタリング時に保護者だけでなく子どもの意思を確認する機会を設けている。	
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	○		説明の時間をとって説明し、同意を得ている。	
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○		相談があったときに、随時適切に相談を行っている。	相談をしやすいように、定期的な相談時間をお知らせしていく。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		定期的に保護者会を開催し、研修会の後、保護者同士で交流する機会を設けている。	今後も、保護者会で、保護者同士が交流する時間を確保していく。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談の申し入れがあったときには、迅速かつ適切に行っている。	経験豊富な元教員や、公認心理師が複数いるので、今後も迅速かつ適切に対応していく。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		HPやLINE等を活用して連絡や情報を発信している。	いろいろな機会を通して情報を発信していく。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		相談室を設けて個人情報に配慮した相談体制ができています。	
36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	△		今までは、意思疎通や情報伝達のための配慮が必要な子どもや保護者はいなかった。	今までは意思疎通や情報伝達のための配慮が必要な子どもや保護者はいなかったが、今後配慮が必要になった場合は配慮する。	
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	○		学校の先生からの相談にも応じている。	
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	○		必要に応じて適宜カンファレンスを行っている。	
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	△		放課後等デイサービスの利用時に支援内容について話し、報告書を渡している。	
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		訪問支援対象児以外の子どもの個人情報にも十分留意して支援した。	

	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	○		学校の先生からの相談にも応じている。	
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアル作成をしているが、訪問先での間接支援なので学校のマニュアルに沿って実施している。	
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画は作成しているが、訪問先での間接支援なので学校の管理下で支援をしている。	
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書を作成し、職員で共有し対策を話し合った。	
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修会を開いて周知した。	
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		訪問先での間接支援なので、身体拘束を行う場面はない。	